

3. シイタケ品種選抜試験

清水 高志

I はじめに

シイタケの種菌は年々改良された新品種が市販されている。しかし、すべてが現地に適応性が高い品種とは考えられない。そこで、市販前の品種を供試し、これら品種が都下の自然条件に対する適合性を検討し、シイタケ栽培の安定と生産性の向上に資するための試験研究成果を報告する。

II 試験方法

従来、都下で栽培されている系統（森、明治、秋山）のなかから、同一品種を露地栽培及び不時栽培に供試し、露地栽培では植菌後5か年ホダホを自然林内に放置し、不時栽培では、夏期及び冬期に植菌後2～3年目のホダ木について2～6回転して、それぞれ子実体の発生状態を観察し、発生量、発生型、形状、品質、特性等を検討した。

ここでは、露地栽培に供試した昭和53年植菌の7品種並びに不時栽培に供試した昭和55年植菌の7品種について、その試験成績を報告する。

1 露地栽培試験

(1) ホダ場の概況

所在地：西多摩郡五日市町戸倉928

方位：南

傾斜：緩

海拔高：230 m

土壌型：BD埴質

pH : 5.7

樹種：スギ

樹令：20年生

庇陰度：70%

地表植物：リュウノヒゲ、チチミザサ、イノコヅチ、ドクダミ、カラムシ、マンリョウ、ヤブコウジ等

気 象

年	気 温 (°C)				湿 度 (%)		降 水 量 (mm)
	平 均	最 高	最 低	積 算	平 均	最 少	
53	14.5	33.8	-6.0	5,304	66	17	1,003
54	15.3	34.4	-4.0	5,570	66	15	1,596
55	14.2	32.2	-3.4	5,194	66	13	1,294
56	14.0	34.0	-6.0	5,117	64	15	1,343
57	14.9	32.0	-4.9	5,440	66	15	1,755
平 均	14.6	33.3	-4.9	5,325	66	15	1,398

(2) 供試品種：7L1、7L2、7H5、03B、B527、A41、A77

(3) 供試原木：コナラ、末口直径9.0～15.5cm、長さ91cm

(4) 植菌量：原木1本当たり平均24個（末口直径の2倍）

(5) ホダ木管理：天地返1年2回

(6) 結果及び考察

試験成績については、表-1及び図-1、表-2及び図-2のとおりである。

ア. 発生状態について

5か年間の総発生量では、A41>B527>7L1>A77>03B>7L2>7H5の順であって、A41は最も少ない7H5の約1.6倍となっている。

最多発生年はA41のみ2年目で、他の6品種はすべて3年目であった。とくに、7L1は3年目の発生量が全年の50%をこえ、また7L2、B527は同じく60%をこえている。更にA41は2年目の発生量が全年の49%に達している。

年別では、第1年目はA41のみ発生がみられたが、他の6品種は全く発生がみられなかった。第2年目はA41>7L1>A77>B527>03B>7H5>7L2の順であって、とくにA41の発生量は前年の約3.5倍に達した。第3年目はB527>7L2>7L1>A77>03B>7H5>A41の順であって、B527は最も少ないA41の約1.6倍に達した。第4年目は7H5>A77>03B>7L2>7L1>B527>A41の順であって、前年まで発生量の比較的少なかった7H5がめだったが、A41は前年に比べ一段と減少した。第5年目は03B>7H5>7L1>B527>A77>A41>7L2の順であって、全般に発生量は減少した。

月別では、1月は7L1、A41の発生がわずかにみられた。2月は全品種とも発生がみられなかった。3月は7L2>7L1>B527>03B>7H5>A41>A77の順であって、とくに7L2は全月の44%に達した。4月はA77>7H5>03B>B527>7L1>7L2>

A 4 1 の順であって、全品種ともに発生状態は極めて良好で、とくに A 7 7、7 H 5、0 3 B は発生量が全月の 7 0 % をこえている。5 月は A 4 1 > B 5 2 7 > A 7 7 > 0 3 B > 7 H 5 > 7 L 1 > 7 L 2 の順であって、A 4 1 を除いて他の 6 品種は発生不良であった。6 月～9 月は A 4 1 のみ毎月発生がみられたが、7 L 1 は全く発生がみられなかった。10 月～12 月は A 4 1 のみ発生状態が良好であって、他の 6 品種は発生不良であった。

最多発生月は 7 L 1、7 L 2、7 H 5、0 3 B、B 5 2 7、A 7 7 がいずれも 4 月で、A 4 1 のみ 10 月であって、発生型は 7 L 1、7 L 2 が春型、7 H 5、0 3 B、B 5 2 7、A 7 7 がいずれも春秋型、A 4 1 のみ秋春型である。

イ. 形状、品質について

品 種	形 状				色 沢	肉 質	奇形 変形	リンピ	備 考
	傘径	傘厚	柄径	柄長					
7 L 1	大	厚	中	中	茶褐色	中	なし	多	
7 L 2	大	厚	太	中	〃	中	なし	少	
7 H 5	大	厚	中	中	淡褐色	硬	なし	中	
0 3 B	中	中	太	短	〃	硬	なし	少	
B 5 2 7	大	厚	太	長	明るい茶褐色	中	なし	中	
A 4 1	中	薄	細	短	茶褐色	中	なし	多	
A 7 7	大	中	太	短	淡褐色	硬	なし	少	

ウ. 品種特性

7 L 1、7 L 2

いずれも標準的な春型で、年別の発生傾向もやや同様であるが、3 月の発生は 7 L 2 の方が多く、また、第 2 年目及び総発生量では 7 L 1 の方が多い。従って、7 L 1 の方がやや早生であって、全般に子実体の品質も良好で、露地栽培に適するものと思われる。

7 H 5、0 3 B

いずれも春秋型ではあるが、春発生の傾向が強く、とくに 4 月の発生は 7 H 5 が全体の約 80 %、0 3 B が全体の約 73 % と高く、秋発生は比較的少ない。全般に子実体は肉質がしまり硬目で、品質は良好とはいえない。従って、この品種は露地栽培にはあまり適さない。

B 5 2 7

この品種は現在「252」という名称に変更し市販されている。発生は春秋型で、とくに春発生の傾向が強く、3～4 月の発生で全体の約 84 % に達し、秋発生は比較的少ない。子実体は品質上の欠点はほとんどみられず、全般に品質は極めて優秀で、露地栽培において最適である。

A 4 1

発生は秋春型で、とくに全品種中走り子の発生が最も早く、1年目の発生が全年の約14%、3年目までの発生が全年の約89%に達し、全般的に極早生系多収型であるが、子実体が貧弱で品質が悪く、市場性に乏しく普及性がない。

A 7 7

発生は春秋型で、とくに4月に発生が集中し全体の約82%に達している。子実体は全般に肉質がしまり硬目で、品質は良好とはいえない。従ってこの品種は露地栽培には適さない。

表 - 1

露地栽培試験における子実体発生量

発 生 年 供試ホダ木				第 1 年 目 昭和 5 3 年					第 2 年 目 昭和 5 4 年					第 3 年 目 昭和 5 5 年				
品 種	本数	原木材積	原木重量	個数	重 量	個 / g	$0.1 m^3$ / g	原 木重量率	個数	重 量	個 / g	$0.1 m^3$ / g	原 木重量率	個数	重 量	個 / g	$0.1 m^3$ / g	原 木重量率
7 L 1	15 ^本	0.1920 m^3	181 ^{kg}	個	g			%	72 ^個	2,090 ^g	29	1,089	1.2%	435 ^個	7,470 ^g	17	3,891	4.1%
7 L 2	15	0.1834	178						1	30	30	16	0.0	288	7,190	25	3,920	4.0
7 H 5	15	0.1806	173						6	190	32	105	0.1	302	4,670	15	2,586	2.7
0 3 B	15	0.1763	172						31	570	18	323	0.3	284	5,070	18	2,876	2.9
B 5 2 7	15	0.1859	182						21	1,230	59	661	0.7	385	8,830	23	4,750	4.9
A 4 1	15	0.1736	162	96	2,230	23	1,285	1.4	411	7,730	19	4,453	4.8	344	3,990	12	2,298	2.5
A 7 7	15	0.1740	159						135	1,620	12	931	1.0	294	5,200	18	2,989	3.3

第 4 年 目 昭和 5 6 年					第 5 年 目 昭和 5 7 年					計					植 菌 年 月 日	走 り 子 発 生 年 月 日
個 数	重 量	個 / g	$0.1 m^3$ / g	原 木重量率	個 数	重 量	個 / g	$0.1 m^3$ / g	原 木重量率	個 数	重 量	個 / g	$0.1 m^3$ / g	原 木重量率		
231 ^個	2,950 ^g	13	1,536	1.6%	128 ^個	1,830 ^g	14	953	1.0%	866 ^個	14,340 ^g	17	7,469	7.9%	53. 4. 20	54. 12. 1
191	2,870	15	1,565	1.6	36	630	18	344	0.4	516	10,720	21	5,845	6.0	53. 4. 20	54. 6. 1
246	3,700	15	2,049	2.1	97	1,860	19	1,030	1.1	651	10,420	16	5,770	6.0	53. 4. 20	54. 8. 20
277	2,950	11	1,673	1.7	140	1,820	13	1,032	1.1	732	10,410	14	5,905	6.0	53. 4. 20	54. 8. 20
139	2,450	18	1,318	1.3	99	1,680	17	904	0.9	644	14,190	22	7,633	7.8	53. 4. 14	54. 4. 13
118	1,030	9	593	0.6	73	680	9	392	0.4	1,042	15,660	15	9,021	9.7	53. 4. 21	53. 9. 21
205	2,960	14	1,701	1.9	59	1,070	18	615	0.7	693	10,850	16	6,236	6.8	53. 4. 21	54. 3. 10

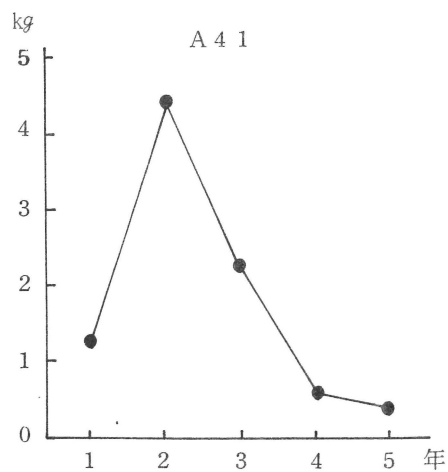
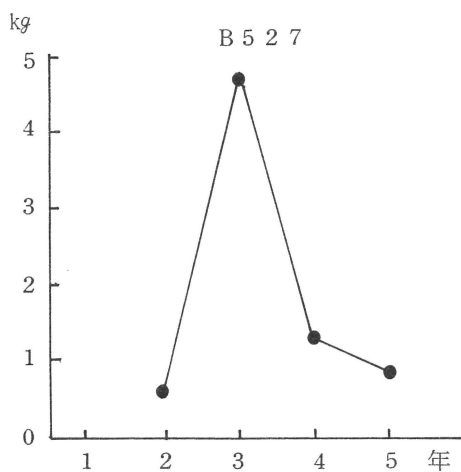
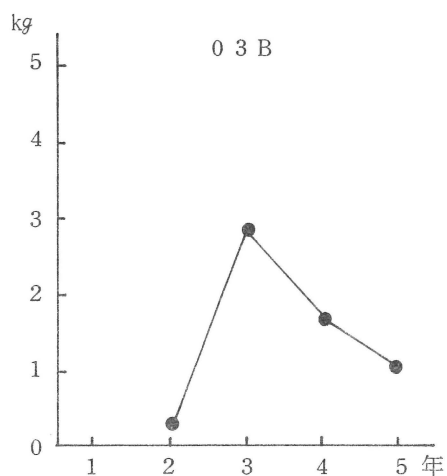
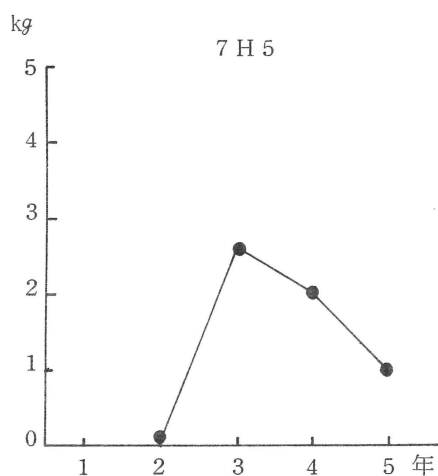
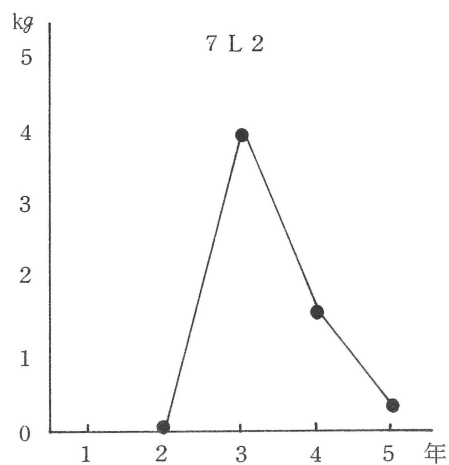
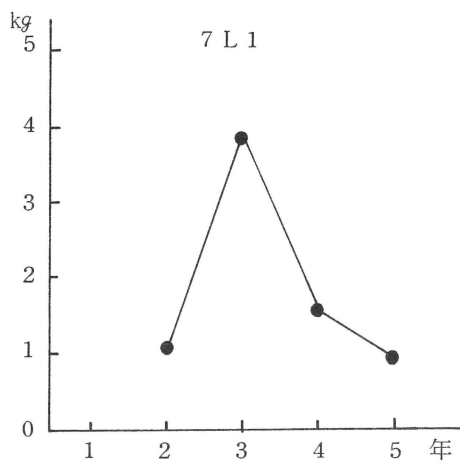


図-1 露地栽培試験における子実体発生量 (0.1 m³/kg)

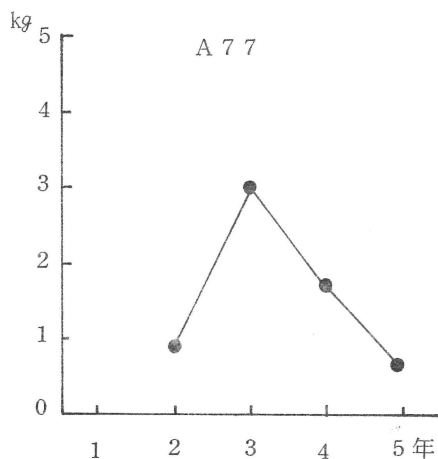


表-2-1

7 L 1

単位：0.1 m³/g

年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
5 3														
5 4												1,089	1,089	14.6
5 5	42		750	2,891	208								3,891	52.1
5 6			1,130	364	42								1,536	20.5
5 7			104	781	68								953	12.8
計	42		1,984	4,036	318							1,089	7,469	
比率%	0.6		26.6	54.0	4.2							14.6		100.0

表-2-2

7 L 2

単位：0.1 m³/g

年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
5 3														
5 4						16							16	0.2
5 5			948	3,830	142								3,920	67.1
5 6			1,549	16									1,565	26.8
5 7			93	191	60								344	5.9
計			2,590	3,037	202	16							5,845	
比率%			44.3	52.0	3.5	0.2								100.0

表-2-3

7 H 5

単位：0.1 m³/g

年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
5 3														
5 4								94		11			105	1.8
5 5			50	2,076	294		166						2,586	44.8
5 6			404	1,645									2,049	35.5
5 7				875				72	83				1,030	17.9
計			454	4,596	294		166	166	83	11			5,770	
比率%			7.9	79.7	5.1		2.9	2.9	1.4	0.1				100.0

表-2-4

O3B

単位: 0.1 m³/g

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
53														
54								34		289			323	5.5
55			170	2,439	267								2,876	48.7
56			664	981	28								1,673	28.3
57				862	40			108	22				1,032	17.5
計			834	4,282	335			142	22	289			5,904	
比率%			141	72.5	5.7			2.4	0.4	4.9				100.0

表-2-5

B527

単位: 0.1 m³/g

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
53														
54				27	194	38		75	22	306			662	8.7
55			1,124	3,109	517								4,750	62.2
56			683	635									1,318	17.3
57			183	629	11			22	59				904	11.8
計			1,990	4,400	722	38		97	81	306			7,634	
比率%			26.1	57.6	9.4	0.5		1.3	1.1	4.0				100.0

表-2-6

A41

単位: 0.1 m³/g

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
53									29	305	547	403	1,284	14.2
54	104		104	443	1,014	207	104	104	178	1,596	282	317	4,453	49.4
55			150	386	288					633	841		2,298	25.5
56			357	150							86		593	6.6
57			87	98	46						161		392	4.3
計	104		698	1,077	1,348	207	104	104	207	2,534	1,917	720	9,020	
比率%	1.1		7.7	12.0	15.0	2.3	1.1	1.1	2.3	28.1	21.3	8.0		100.0

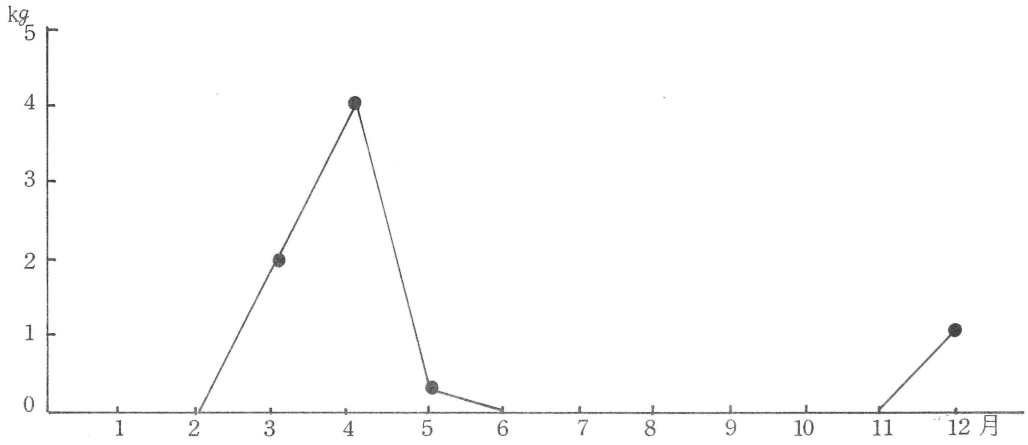
表-2-7

A77

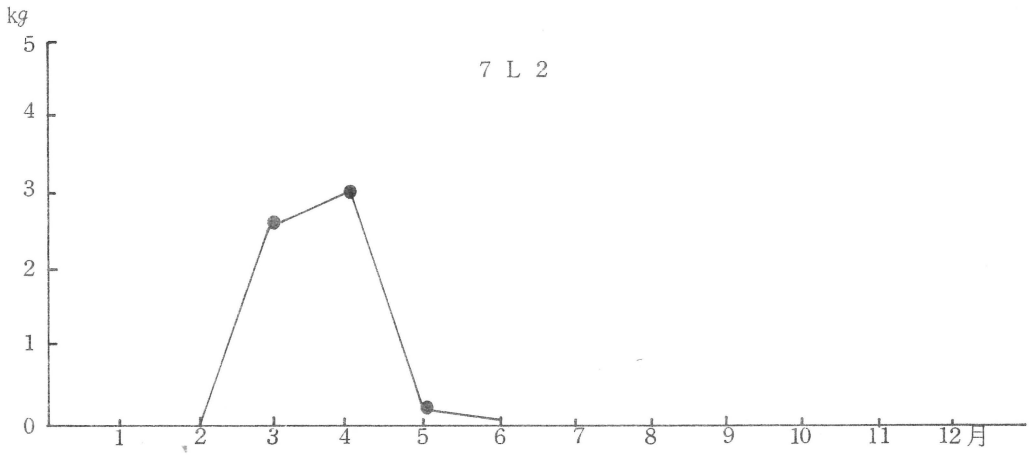
単位: 0.1 m³/g

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	比率%
53														
54			86	644	155	17		12		17			931	14.9
55			46	2,529	414								2,989	47.9
56			167	1,534									1,701	27.3
57				402				201	12				615	9.9
計			299	5,109	569	17		213	12	17			6,236	
比率%			4.8	81.9	9.1	0.3		3.4	0.2	0.3				100.0

7 L 1



7 L 2



7 H 5

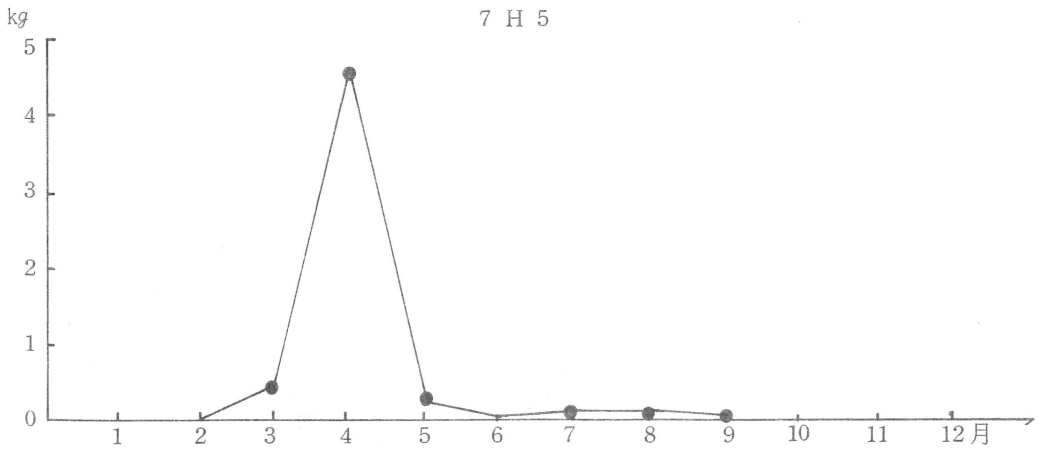
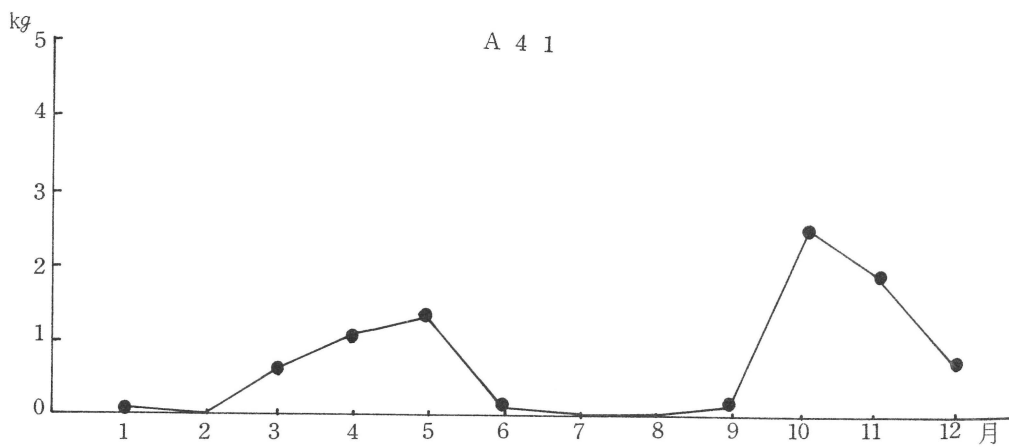
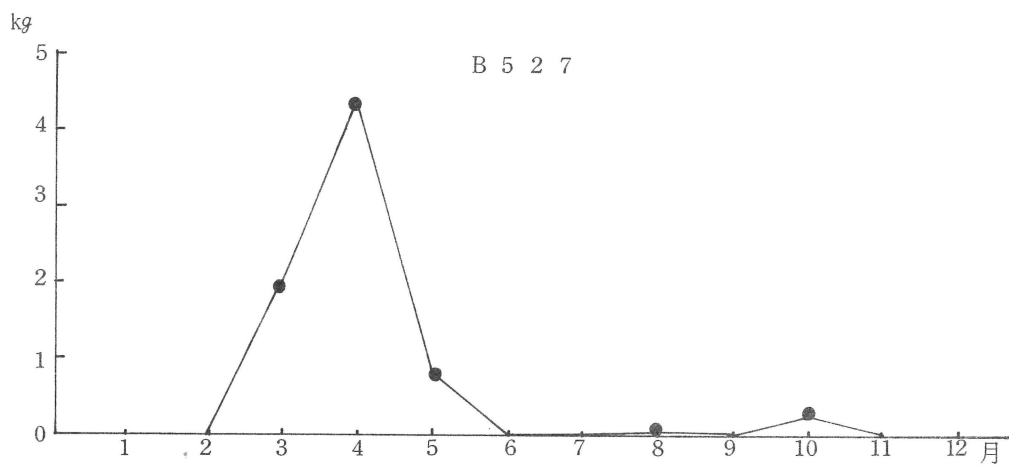
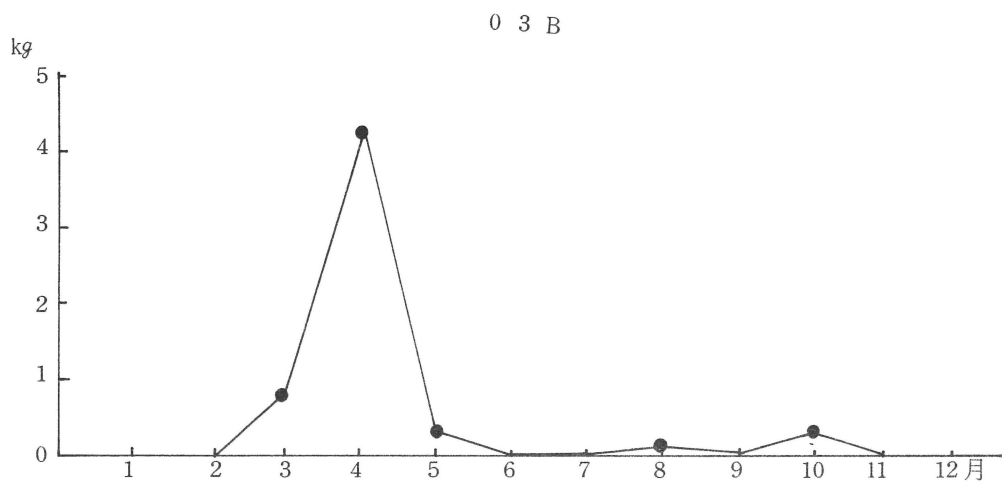
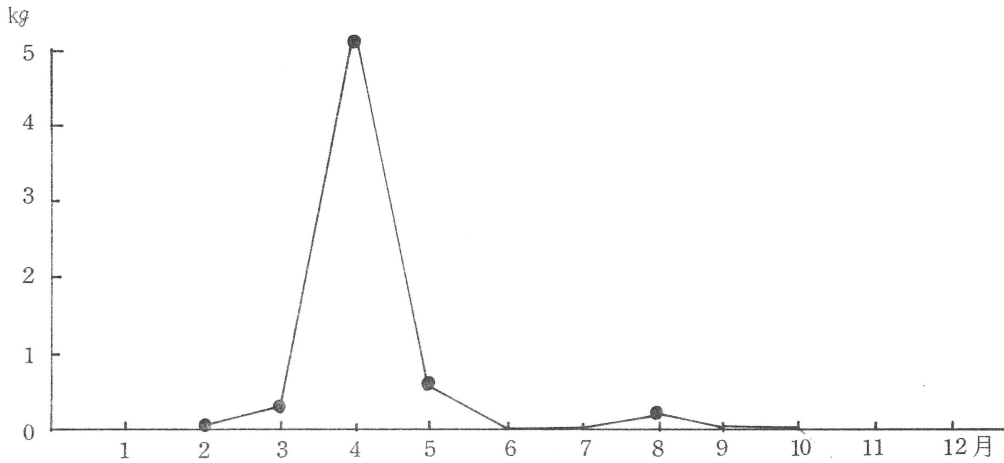


図-2

月別子実体発生量 ($0.1 m^3 / kg$)





2. 不時栽培試験（夏期栽培）

- (1) 供試品種：7 H 1、7 H 2、1303、A 7 5
- (2) 供試原木：コナラ、末口直径 4.5 cm～9.5 cm、長さ 91 cm
- (3) 植菌期日：昭和55年4月18日～21日
- (4) 植 菌 量：原木1本当たり平均13個（末口直径の2倍）
- (5) ホダ木管理：天地返し年2回
- (6) 浸 水：16～21時間、14～19℃（水温）、クーラー（ホンダHC-71R型、10OV）
使用
- (7) 芽出し操作：行わない。
- (8) 発生管理：フレーム全体をピアレスフィルムで遮光し、ホダ木は三角積み（高さ120 cm）に
展開した。
- (9) 結果及び考察

ホダ木は56年3回転、57年3回転計6回転した。その試験成績は表-3及び図-3のとおりである。

ア. 発生状態について

6回転した総発生量では、7 H 1 > 7 H 2 > A 7 5 > 1303の順であって、1303（対象区）と比較すると7 H 1は約1.8倍、7 H 2は約1.7倍、A 7 5は約1.5倍となっている。

各回別にみると、第1回目は7 H 2 > A 7 5 > 1303 > 7 H 1の順であって、7 H 1、1303は発生が不良であった。第2回目は7 H 2 > 7 H 1 > A 7 5 > 1303の順であって、7 H 1は前回に比べ発生状態が好転したが、1303は発生不良であった。第3回目は7 H 1 > 7 H 2 > A 7 5 > 1303であって、全般的に発生量が減少したが、発生傾向は前回とやや同様であった。第4回目は

7 H 1 > 7 H 2 > A 7 5 > 1303 であって、全般的に前回に比べ発生状態は良好であった。第5回目は A 7 5 > 7 H 1 > 1303 > 7 H 2 であって、全般的に発生不良であった。第6回目 A 7 5 > 7 H 1 > 1303 > 7 H 2 であって、7 H 2 以外の3品種は前回に比べ発生状態が好転した。

イ. 形状、品質について

品 種	形 状				色 沢	肉質	奇形 変形	リンピ	備 考
	傘径	傘厚	柄径	柄長					
7 H 1	中	中	中	中	茶褐色	中	なし	中	第1回目奇形あり
7 H 2	中	中	中	中	淡褐色	中	なし	中	
1303	中	中	中	短	茶褐色	硬	なし	小	
A 7 5	中	中	細	中	褐 色	中	なし	小	

ウ. 品種特性について

7 H 1

子実体の総発生量では全品種中最も多く、最も少ない1303の約1.8倍であって、とくに第2回目～第4回目に発生が集中している。従って、この品種は高温系中生種である。なお、第1回目の発生で奇形の子実体がみられたので、植菌翌年7月以降に子実体を発生させた方が無難である。

7 H 2

子実体の総発生量では7 H 1に次いで多く、最も少ない1303の約1.7倍となっている。とくに第1回目及び第2回目の発生状態が極めて良好で、この2回転で原本生重量の約13%にも達している。子実体の形状、品質も1303に次いで良好である。従って、更にホダ化が促進されれば植菌翌年の4～5月に子実体の発生が可能と思われる。以上の結果からこの品種は高温系の早生種である。

1303 (対象区)

子実体の総発生量では全品種中最も少なく、最も多い7 H 1の約54%の発生状態であった。子実体の形状、品質は全品種中最も厚肉であって、全般的に極めて優秀であった。この品種は古くから市販されている代表的な高温系中生種であって、子実体も一斉多発の傾向が少なく、とくに最初から最後まで品質優秀な子実体であって、市場性が高い。ただし、子実体の発生は植菌翌年の7月以降とし、秋季気温が10℃以下になると子実体の肉質が異状に硬く、黒くなる状態が現われる。

A 7 5

子実体の総発生量は最も少ない1303の約1.5倍であって、発生傾向は7 H 2とやや同様である。子実体の形状、品質は全品種中最も薄肉で、全般的に小形で貧弱であって、とくに子実体が一斉多発の傾向もあるので、子実体発生管理に当っては十分注意し、市場性の向上を図る必要がある。従

って、この品種は高温系の早生種である。

3. 不時栽培試験（冬期栽培）

- (1) 供試品種：904、6 L 4、252
- (2) 供試原木：コナラ、末口直径4.5～9.5 cm、長さ91 cm
- (3) 植菌期日：昭和55年4月19日、21日
- (4) 植 菌 量：原木1本当たり平均14個（末口直径の2倍）
- (5) ホダ木管理：天地返し年2回
- (6) 抑制操作：10～11月2か月間イゲタ積み、トタン板覆い
- (7) 浸 水：48～68時間
- (8) 芽出し操作：72～97時間、13～19℃、ファーマット（F-111、100 V）使用
- (9) 発生管理：フレーム内三角積み（高さ120 cm）に展開
- (10) 結果及び考察

ホダ木は56年1回転、57年2回転、58年1回転の計4回転した。その試験成績は表－4及び図－4のとおりである。

ア. 発生状態について

4回転した総発生では、 $252 > 6 L 4 > 904$ の順であって、対象区の904に比べ252は約1.3倍、6 L 4は約1.2倍となっている。発生傾向をみると6 L 4及び252は最初の発生が良好であるが回を追うごとに急激に発生量が減少しているが、904は漸増傾向にあった。

各回別にみると、第1回目及び第2回目はともに $252 > 6 L 4 > 904$ の順であって、6 L 4及び252は第2回目の方が減少したが、904は第2回目の方が増加した。第3回目及び第4回目はともに $904 > 252 > 6 L 4$ の順であって、904は前2回に比べ発生量がわずかに増加したが、6 L 4及び252は更に減少した。

イ. 形状、品質について

品 種	形 状				色 沢	肉 質	奇形 変形	リンピ	備 考
	傘径	傘厚	柄径	柄長					
904	中	中	中	短	茶褐色	中	なし	中	
6 L 4	中	中	中	短	濃褐色	中	なし	中	
252	中	中	中	短	褐色	中	なし	小	

ウ. 品種特性について

904 (対象区)

6 L 4、252 の比較対象品種として供試したが、この品種は春型の中温系であって、自然発生ではとくに4月における子実体の発生状態は極めて良好である。従って、不時栽培においては子実体の発生が一時期に集中しない傾向にあって、不時栽培には適さない。

6 L 4

この品種は中低温系であって、904 に比べ第1回目及び第2回目の発生状態が極めて良好であって、中低温系の早生である。従って、この試験では12月から子実体を発生させたが、むしろ11月上旬から浸水発生を行なう方が好結果を得られるものと思われる。一方、品質上では傘の色が濃褐色のため、904 に比べ見おとりがする。

252

この品種については、中低温系ですでに昭和55年度研究速報でその特性は発表済である。

子実体の発生傾向は6 L 4 とほとんど同様であって、11月上旬から浸水発生させることができる。子実体の形状、品質は3品種中最も良好である。

3 不時栽培（夏期栽培）における子実体発生量

回転数期間				第 1 回 5 6. 6.2 6 ～ 5 6. 7. 4						第 2 回 5 6. 7.3 0 ～ 5 6. 8. 6						第 3 回 5 6. 8.2 8 ～ 5 6. 9. 4					
ホダ木	重	本数	原木材積 kg	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率
1	本	40	0.1706	個	4,150	16	2,433	104	2.6	個	7,020	14	4,115	176	4.4	個	6,170	11	3,617	154	3.9
2	40	0.1690	155	969	13,170	14	7,793	329	8.5	555	7,190	13	4,254	180	4.6	184	2,270	12	1,343	57	1.5
3	40	0.1817	166	394	4,870	12	2,680	122	2.9	382	5,400	14	2,972	135	3.3	100	1,410	14	776	35	0.8
5	40	0.1684	160	925	8,480	9	5,036	212	5.3	666	6,520	10	3,872	163	4.1	160	1,400	9	831	35	0.9

第 4 回 5 7. 7.2 2～5 7. 7.2 9						第 5 回 5 7. 8. 6～5 7. 8.1 2						第 6 回 5 7. 8.3 1～5 7. 9. 7						計					
材	重 量	個	0.1 m ³	本	原 木	個 数	重 量	個	0.1 m ³	本	原 木	個 数	重 量	個	0.1 m ³	本	原 木	個 数	重 量	個	0.1 m ³	本	原 木
		<i>g</i>	<i>g</i>	<i>g</i>	重量率			<i>g</i>	<i>g</i>	<i>g</i>	重量率			<i>g</i>	<i>g</i>	<i>g</i>	重量率			<i>g</i>	<i>g</i>	<i>g</i>	重量率
固	<i>g</i> 7,360	9	4,314	184	4.7 %	個 74	<i>g</i> 750	10	440	19	0.5 %	個 228	<i>g</i> 3,000	13	1,758	75	1.9 %	個 2,476	<i>g</i> 28,450	11	16,676	711	18.0 %
	2,520	13	1,491	63	1.6	4	30	8	18	1	0.0	95	1,340	14	833	34	0.9	2,008	36,520	13	15,692	663	17.1
	1,780	13	980	45	1.1	20	230	12	127	6	0.1	192	2,760	14	1,519	69	1.7	1,228	16,450	13	9,053	411	9.9
	2,460	11	1,461	62	1.5	114	1,060	9	629	27	0.7	275	3,130	11	1,859	78	2.0	2,372	23,050	10	13,688	576	14.4

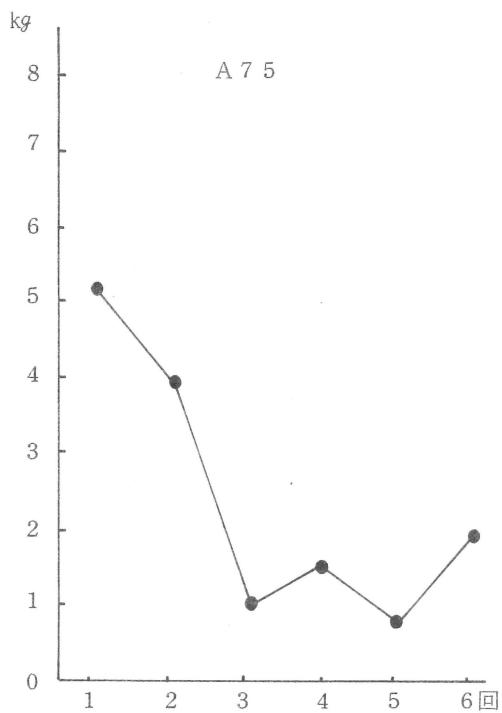
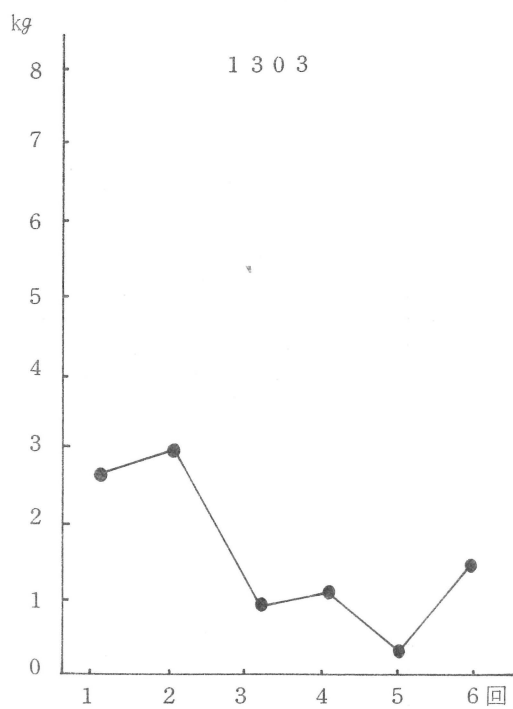
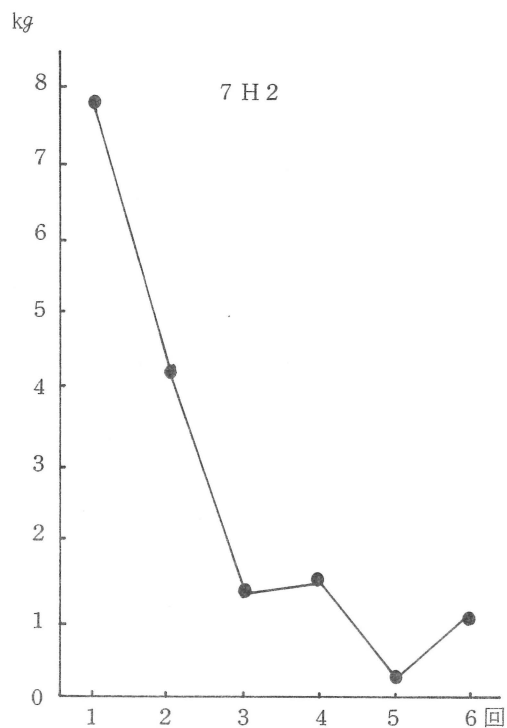
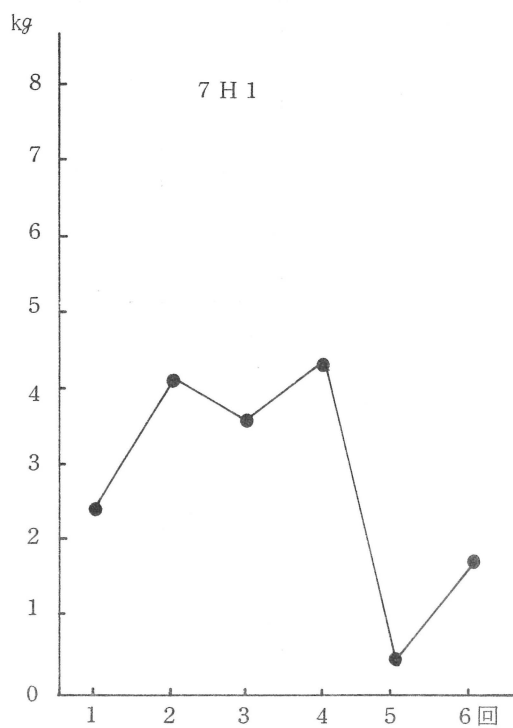


図-3 不時栽培（夏期栽培）における子実体発生量

表-4

不時栽培試験（冬期栽培）における子実体発生量

回 転 数 期 間 供 試 ホ タ 木				第 1 回 5 6. 1 2. 2 ~ 5 7. 1. 4						第 2 回 5 7. 1. 2 6 ~ 5 7. 2. 2 3					
品 種	本数	原木材積	原 木 生重量	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率
9 0 4	40 ^本	0.1762 m ³	165 kg	156 ^個	2,710 g	17	1,538	68	1.6 %	170 ^個	3,530 g	21	2,003	88	2.1 %
6 L 4	40	0.1712	157	590	7,370	12	4,305	184	4.7	431	5,620	13	3,283	141	3.6
2 5 2	40	0.1769	158	583	8,550	15	4,833	214	5.4	490	6,950	14	3,929	174	4.4

第 3 回 5 8. 1. 5 ~ 5 8. 2. 5						第 4 回 5 8. 3. 1 2 ~ 5 8. 3. 3 0						計					
個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率	個 数	重 量	個 g	0.1 m ³ g	本 g	原 木 重量率
355 ^個	4,250 ^g	12	2,412	106	2.5 %	319 ^個	4,390 ^g	14	2,491	110	2.7 %	1,000 ^個	14,880 ^g	15	8,445	372	9.0 %
91	1,350	15	789	34	0.9	50	640	13	374	16	0.4	1,162	14,980	13	8,750	375	9.5
188	2,510	13	1,419	63	1.6	102	1,130	11	639	28	0.7	1,363	19,140	14	10,820	479	12.1

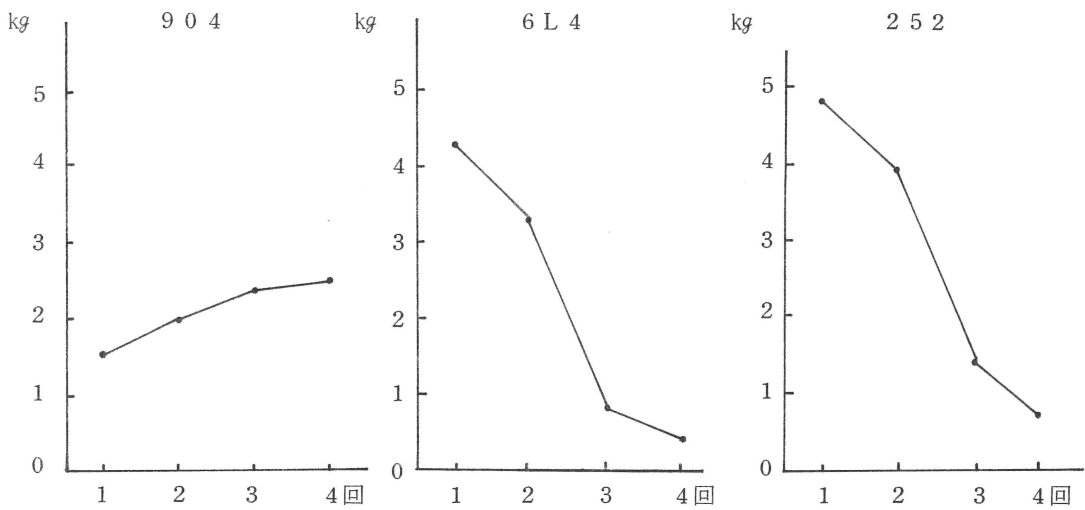


図-4 不時栽培（冬期栽培）における子実体発生量

引用文献

- 1) 清水高志、1980、シイタケ新品種の特性について、東京都農業試験場昭和55年度研究速報
- 2) 清水高志：1976、シイタケ品種選抜試験、東京都農業試験場五日市分場昭和51年版林業試験研究業務報告書
- 3) 東京管区气象台、1977～1981、東京都気象年報